

# 夢の本棚

発行所：松居直コレクション  
プロジェクト  
代 表：金戸 美紀予  
事務局：石川県小松市  
小馬出町10-3  
空とこども絵本館  
☎ 0761-23-0033  
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉  
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

## 堀内さんがマスターされたこと

◆渡辺桂子さんが物語を描かれた『たろうのともだち』。これが2



渡辺桂子さく/堀内誠一え  
70号/1962年1月号

## 独断的な画家の選び方

◆私は割合、独断的な絵描きさんの選び方をします。当時の日本で童画というものを描いてらした絵描きさん

「子どものとも」で育む豊かな心と生きる力  
話の中でその人となりを感じて起用



私はほとんど起用してないんです。全部、自分で選んだんです。ですから、絵本の絵を描いてらっしゃらない方の中からほとんどピックアップして、漫画家の方だとか、イラストレーターの方だとか、あるいは油絵でも日本画でも版画の方でも、絵本の絵を描いてらっしゃらない、「この人なら面白い絵を描けるだろう」といった気持ちで絵描きさんを選んでおりました◆長新太さんなんかもそうですし、瀬川康男さんや安野光雅さんなんかもそうです。堀内誠一さんも、当時は伊勢丹の広告部で非常に素晴らしい仕事をしていた。まだ20代前半でしたが、私に紹介してくださいる方があって、お話をしているうちに「あ、この人はいける」といいうふうに思ったんです。

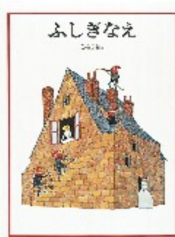
## フィッツジャーの画集から

◆安野光雅さんなんかも学校の先生で、私は図画工作の授業を見ていて感心したんです。非常に論理的で、ユーモラスで、子どもたちのイメージを生き生き

とさせるような授業をされるんですね。日本語の使い方も見事でした。「この人は面白い人だなあ」と思っていたら、先生をお辞めになった途端に絵本をするようになったんです◆ある時、電話がかかってきて「ちょっと見せたい本があるから来てくれませんか」と言われて新宿の喫茶店へ行きましたら、安野さんが私に画集をお見せになったんですよ。フィッツジャーという人の画集、初めて見ました。それを見ているうちに、フィッツジャーのほんとは面白さを私は感じました◆「安野さん、こういう絵を描きたいんですか」と聞いたら、「そうですよ」とおっしゃいました。「これ、いけるじゃありませんか」と言ったら、「ところが、文章がないんですよ」と。それで私は「物語はなくても、絵はあるんですよ」と言ったんです◆絵というのには言葉

を絵に全部たんだから、絵は全部言葉です。子どもは、絵を読むんです。大人は絵を見るだけ。しかし、子どもは絵を隅から隅まで読みます。文章以上にたくさん言葉が、絵本の中にはあります。絵が読めなければ、絵本では半分も読めません。

◆安野さんの最初の『ふしぎなえ』について



安野光雅 絵  
1971年/福音館書店刊

（つづく）